九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

【寄稿】奥田先生の発想に啓発されて

池，芳隆
元福岡県職員労働組合・粕屋支部書記長

https://doi.org/10.15017/7148415

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 11, pp.354-355, 2023-09-30. 奥田八二日記研究会(九州大学大学文書館内)
バージョン：
権利関係：

【寄　稿】

奥田先生の発想に啓発されて

池　芳隆

私が福岡県庁に採用されたのは、1985（昭和 60）年 4 月 24 日。奥田知事が 1 期目の 2 年目でした。配属先は遠賀福祉事務所でした。

遡って奥田知事が福岡県知事に当選された 1983 年 4 月、私は松江市にある島根大学法文学部に在籍し、その年の春休みは福岡中央郵便局で配達のバイトをしながら、天神の街を行き交う選挙カーに心躍らせていました。そしてその選挙速報は、松江で共に左翼に関心を寄せる友人 5 人と友人の下宿で酒を飲みながら、「福岡がすごいことになっとる」と語り合い、大学 3 年の専攻課目として選んだのは政治学。当時政権を担っていたミッテラン大統領率いるフランス社会党を通して政権交代を考察してみようというものでした。その資料として活用したのは、父の書棚にあった「進歩と改革」であり、「社会問題月報」でした。ヨーロッパの社会主義、社会民主主義の流れに心を引かれ、その中でユーゴスラビアのチトーが主導していた「自主管理社会主義」、労働組合が自ら企業の経営を担うというその思想から、当時日本でも地域のことは自分たち地域の者で担う中野区の教育委員公選制などから地方自治へと関心が広がり、国家権力の暴走の歯止めとしての地方自治に惹かれ、福岡県庁への挑戦を決めました。

ちなみにその後も年末年始、春休み、夏休みには中央郵便局で配達のバイトをし、私が受け持っていた配達地域大名には奥田知事の事務所があり、配達を担当していました。

とここまでは威勢のいいことを書き連ねましたが、いざ就職したら仕事はてんでダメ。ただの一介の事務職員として定年を迎えました。そんな私にとって、唯一誇れるものをあげるとしたら、業務上ではなく、地域での活動、PTA 活動（小・中・高で計 6 年間会長をしました）や中学陸上部での外部指導コーチ活動（12 年間）、アンビシャス活動を実践してきたこと。そしてこの原点となったのが、青年部時代の学習会で聴いた奥田知事のお話、「通常北が上の世界地図を逆にして見てごらん。そしたら東京や大阪でなく福岡がアジアの玄関口だということがよくわかるよ」、「そしてこれからは国と国の利益がぶつかり合う国同士の外交ではなく、一人ひとりの顔がみえる市民同士の交流が世界平和につながっていくんだよ」という言葉です。それを実感したのは、約 20 年前に小学校の PTA 会長を 3 年間（副会長を入れると 5 年間）したとき、うちの小学校が韓国の小学校と姉妹校交流をおこない、夏休みに互いに 3 泊 4 日でホームステイをし、私も一緒に参加した時のこと。言葉もほとんどわからない子ども同士が、肩を寄せ合って家路につく姿をみた時、そして大人同士も酒を酌み交わして深める交流を通して「ああ、これが奥田知事の話された市民同士の交流だ」

と実感しました。私自身もこの交流を通して韓国語を学び始め、簡単な日常会話はできるようになり（韓国語能力検定中級）、高校の PTA 会長の時、韓国の高校との姉妹校交流では通訳なしで語り合い、メモなしでスピーチをしました。また、中学の PTA 会長（2 年間）もした関係で、中学の陸上部長距離の外部指導をしていたとき、奥田知事が話されたあの南が上になった世界地図（カレンダー）がベスト電器の年末年始のプレゼントとして配布されていたのを手にして、早速指導している長距離部員に見せて、福岡の「位置づけ」を説明したものでした（もちろん息子たちやその友人たちにも）。

最後に今回、奥田日記の翻刻という、このような貴重な機会を得たのも父・稔の存在があっての事だと思います。改めて私、そして父と関わりを持ってくださいました全ての皆様に感謝申し上げます。

【編集者註】

筆者のご尊父、池 稔氏は全逓又日本社会党の役員として奥田知事とも深い関係にありました。「日記」に度々登場しています。